

## 学会の開催形態と開催校について

一般社団法人日本数学会  
理事長 寺杣 友秀

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行とともに 2020 年は明けました。

2020 年度年会, および 2020 年度秋季総合分科会はそれぞれ日本大学理工学部, 熊本大学のキャンパスを会場として開催される予定でしたが, 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から, オンライン開催と開催方法を変更しました. 日本大学理工学部においてはアブストラクト公開に, 熊本大学では, アブストラクト公開, 講演スライド (一部) および動画の配信 (一部) に, 学会発表の場を移す決定をしたわけです.

日本数学会の最大のイベントである, いわゆる春と秋の学会は, 数学者がお互いの研究の成果を持ち寄り, 分野を超えた数学, 数理科学全体のお互いの交流を図るために開催されるものです. この分野を超えた交流を実質的に支えているのが, 数学会の 10 分科会と 1 つの特別セッションであり, それらが一堂に会するための会場として, 全国の大学に持ち回りで開催校をお願いしています. 開催校は大学当局の協力を仰ぎつつ, 通常 2 年前から準備を開始しているわけですが, 毎回の開催校の方々にはボランティアな多大なるご尽力をいただいております, それをもって始めて学会活動がなりたっています.

このことは残念ながら今回現地開催のかなわなかった, 日本大学理工学部, 熊本大学についても同じことです. ここで, 数学通信の紙面をお借りしまして, 日本大学理工学部, 熊本大学の両大学には開催校をお引き受け頂いたことに心からの感謝の意を表し, 改めまして公式の開催校として記録に残すことにいたします.

次回, 慶應義塾大学で開催されます 2021 年度年会についても, どのように開催するべきか理事会でも議論されましたが, 結論として, 大変残念なのですが, オンライン開催とすることとしました. これは方針を決める半年前の段階において, まだ状況がはっきりしないこと, また仮に開催校での現地開催をしたとしても, 入室の人数制限に対する対応, 感染防止のための方策を考えなくてはならず, 多大な追加の教室と準備が必要となる可能性も高く, もしそうなる準備が間に合わなくなるであろう, ということが理由です.

前回の熊本大学秋季総合分科会では大方はうまく進行したものの、一部混乱を引き起こしたところもありました。慶應義塾大学における年会の開催においては、その教訓を生かし、より多くの会員の皆様が少しでも参加した実感がもてるようにZoom・ウェビナーなどを用いた開催方法を、今回の公式開催校である慶應義塾大学のスタッフと理事会が協力して、検討し、さらに運営の準備を始めているところです。

本来の目的である交流には、対面による講演、質疑応答が欠かせないことは、オンラインのセミナーなどが増えている今日でも、そして今後も、動かぬ事実と思っています。最後になりますが、対面での学会の重要性に鑑み、慶應義塾大学の次の千葉大学における秋季総合分科会は是非一堂に会して行われる本来の学会再開の実現を目指す決意を述べ、締めくくりといたします。